

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0170100648), 法人名 (有限会社 さとほろ), 事業所名 (グループホーム さとほろ 3階), 所在地 (札幌市中央区宮の森1条6丁目1番16号 301), 自己評価作成日 (令和2年10月31日), 評価結果市町村受理日 (令和2年12月14日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・スタッフを日中3.5人、夜勤は2ユニット3人体制と充実させ、家庭的な雰囲気の中で毎日体操や脳トレ、レクリエーション、自立に向けた作業提供を支援している。
・各委員会を発足し、毎朝各ユニットからスタッフが集まり、入居者様の状況を報告、安全安心な生活が送れるように話し合い、注意喚起をして全スタッフで情報を共有している。
・入居者様の小さな変化に気づき、スタッフ間で情報を共有し、医師、看護師、ご家族と連携を取りながら、早期発見・早期対応が出来るように努めている。
・ご家族様も来所しやすい雰囲気作りを心掛け、家族会の参加や家族参加の三大行事など、共に楽しみ、支えていく関係が出来ている。
・季節に合わせた行事を計画したり、さとほろ農園で野菜を作ったり、旬な食べ物を積極的に取り入れ四季を感じれるようにしている。
・ホームの狭さを利点と捉え、入居者様とスタッフの距離が近く、関わる時間が多い。
・介護職員として、個々のスキルに合わせた外部研修へ積極的に参加、全スタッフも向上出来るように社内に向け報告し、情報を共有している。
・町内会から地域行事のお誘いを頂き、積極的に参加し交流が出来ている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL: https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=0170100648-00&ServiceCd=320

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和2年11月26日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームさとほろは、神宮の社や円山公園、商業施設、食事処が建ち並び、地下鉄から至近距離にあり、6階建てマンションの3階、4階に各ユニットがある。コロナ禍により地域交流や面会等に制限があるが、例年町内会から手製の日めくり暦が届き、民生委員からは介護職員の募集協力があり、また、地域住民からは手作りの足拭きマットの寄贈があるなど、理解と協力を得ている。家族とは玄関先での面会、スマホやテレビ電話等で途切れない関係継続の支援に努めているが、以前は、事業所恒例の新年会、花見、敬老会はホテルで家族参加の食事が行われ、女性利用者はおしゃべりして参列するなど、程良い刺激で非日常を楽しんでいる。職員は健康の源である食事の重要性を理解して、借地の農園で採れる多種多様の野菜や果物などを活用しながら、一汁三菜を基本に、農家から取り寄せたお米や味噌を使用して、手作りに勤しんでいる。利用者はコロナ禍を理解して我慢している中、脳トレや体操など室内レクで持てる力を発揮して、健康維持に励んでいる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation data for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ全員で考えた「地域に根差し、知恵と工夫と想像力を持ち、ゆったりとした毎日を過ごせるよう、ひとりひとりの楽しみと健康と安全を考慮しながら家族の協力を得つつ学びます」と理念を掲げている。意識して理念に沿った関わりが出来るように玄関・台所・詰所に理念を掲示して毎朝、日勤職員で読み上げている。	開設時の理念を見直し、職員の意見を反映した新たな理念を策定している。施設長や管理者から、理念にある「知恵と工夫と想像力」がケアの基本であることを説かれ、職員は理解し実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、町内会の行事や近隣保育園の運動会等に声をかけて頂き、入居者さんと共に積極的に参加をして地域交流の機会を大切にしている。散歩など外出する機会を作り、地域の方へ挨拶するように努めている。	コロナ禍以前は、花植えや餅つきなど町内会行事に参加している。保育園児や実習生、職場体験の中学生との交流、町内会から手製の日めくり暦が届けられ、地域住民からはウエスで作った足拭きマット等が寄贈されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームからの離所時対応で隣接するお店などに声掛けをして認知症の理解と協力をお願いしている。専門学校の実習や近隣中学生の職場体験の受け入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第二水曜日に運営推進会議と家族会を開催し情報交換や家族の意見交換の場を持っている。今年2月を最後に、コロナ禍で集会は出来ていないが、生活支援状況や事故報告、勤務体制、運営状況等を書面で報告している。	書面会議前は関係者の参加を得て定期的開催され、その後家族会に移行するため家族の参加率は高い。利用者や職員の状況、行事、ヒヤリハット等の報告後にメンバーからの意見引き出しに努め、運営の充実に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や事故発生時の報告や、疑問点や不明な点などについて相談、市の管理者連絡会への出席して運営状況等を報告するように努めている。	自肅前は、市の管理者会議や各種研修会に参加し、伝達研修で職員の共有としている。事故報告などの提出書類や空き情報などの報告、運営上の疑問点等で各担当者と関わりを持っており協働関係にある。得られた意見を運営の充実に生かしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠せず、離所に気づけるようにスタッフを充実させ見守りをした上で玄関ドアに鈴を付けるなど工夫している。勉強会やフロア会議、毎朝の申し送り時に委員会活動の一環で日常のケアを振り返り、身体拘束に結びつく可能性について話し合っている。外部研修に積極的に参加し全スタッフにも周知出来るように報告している。	身体拘束等の適正化に向け、マニュアルや指針に沿って委員会や研修会を適宜開催し、適切なケアへの周知徹底を図っている。転倒気味な利用者のベット脇下にマットを敷くなど、現状に応じた対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や勉強会等で定期的に虐待について学ぶ機会を持ち、報告書にて全スタッフで内容を共有している。毎朝の申し送り時に委員会活動とし、不適切なケアがないか振り返り、入居者の小さな変色や傷を確認し、原因を考え防止に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会や外部研修にて学ぶ機会を持ち理解を深めている。 グループホームとして、入居様が自立した生活が送れるように個々の状況に合わせた支援に取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表、施設長、管理者が不明な点等を確認しながら契約書、重要事項等の説明をしている。改定があった場合は家族会で説明し、書面での報告、同意書の確認等をして、入居後も理解、納得の上サービスを利用して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から意見や要望を伝えやすい雰囲気意識して、尋ねるように取り組んでいる。家族会でも意見や提案をして頂き、年に1度アンケート調査も実施し、出来る限り反映するように努めている。苦情に関しても公的な受付機関があることを説明し玄関にも掲示している。	家族には定期的な事業所便りや、個別に写真と担当者からの手紙で日常の様子を知らせている。現在は面会も制限があるが、電話でも運営への意見を聞き取り、得られたときには迅速に解決策を検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会社の理念を基に、日頃から意見を言いやすい関係性を築き、会議や面談にて意見を聞き取り、運営方針や実情から出来ないこともあるが、可能な限り反映するように努めている。介護職員がゆったりと入居者様と関わりながら勤務が出来るように職員を充実させ有休の利用など出来る限りの取り組んでいる。	職員は、広報など各種委員会に所属して研鑽を積み、運営の質向上に繋げている。役職者は職員の心身の状態を把握し、ゆとりある勤務体制にするなど働きやすい環境を整えている。職員の発案で、夜間に模擬の居酒屋を催したこともある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日常的に代表や、施設長と一緒に昼食を囲んだり、外出する機会が多くあり、職員の取り組みや勤務状況の把握に努めており、実績評価を給与に反映している。職員の充実により有休の利用、勤務体制を見直し、休憩時間も確保出来るようになった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時の研修を始め、個々のスキルに合わせた外部研修の参加、現場での実技指導、内部研修では資料の作成や発表を通して働きながらスキルアップが出来るように取り組んでいる。他希望による外部研修の参加や資格取得も勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同区のグループホーム管理者連絡会に参加、年3回行われるスタッフ勉強会には職員も積極的に参加し、交流の機会が持てるように努めている。近隣のグループホームとは年1回行事で会う機会はあるが交流活動は十分とは言えない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様が新しい生活に慣れ、安心して暮らせるように、思いや要望等を可能な限り聞き取り、書面情報からも不安感や不自由な点を把握し、職員間で情報の共有をし、信頼関係を築けるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至る経緯、ご家族様の困っていることや入居後の不安感、思い等を受け止め、安心して頂けるように、こまめな報告、連絡、相談を重ねて一緒に入居者様を支える関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居を希望されて来られる方が殆どだが、事前調査や面談などから不自由していることや要望を見極め、必要なサービスやケアを受けられるように説明し対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様の生活の場と認識し、入居者様本位で暮らせるよう、尊厳を大切に、ひとりひとりの思いに寄り添いながら、暮らしを支え合う人として必要なサポートをするように努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人とご家族様の関係を大切にし、職員は情報を共有し、安心した生活が送れるように面会しやすい環境作り、行事などへ呼びかけ共に楽しむ機会を作る等、ご家族様の協力を得ながら支援に努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で、一時面会禁止としたが元々ご家族様の面会が多いこともあり、札幌の感染者数が減った時から少し規制をしながら面会を再開している。手紙や電話での交流も仲介して関係継続に向けて支援している。	自粛中でも家族とは玄関先での面会、スマホやTV電話等を活用し、知人とはインターホンで会話をするなど、それぞれに安心感を得ている。以前は、職員や家族の支援で自宅周辺をドライブしたり、外食等で出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの病状や性格、利用者同士の折り合いや関係性を理解し、それぞれに配慮しながら仲介している。必要に応じたサポートをしながら作業やレク活動を通じて人と関わり合いながら暮らせるように支援している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りを終え、退去されたご家族様が来訪や差し入れ、必要物品を持ってきて頂くこともあり、繋がりを大切にしながら関係継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的に関わることに重点を置いて、会話や行動、表情等からご本人様の希望や意向をくみ取り、ご家族様からの助言も聞き、入居者様本位の関わりやケアに取り組んでいる。	利用者とはコミュニケーションを介し、要望の汲み取りに努め、理念の一節である「ゆったりとした毎日を過ごせるよう」当たり前の生活維持に取り組んでいる。ケアプラン更新時に、終末期への意向を聞くケースもある。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に可能な限り、ご家族様やご本人様から生活歴や嗜好等の情報を聞き取り、その人らしい生活を送れるよう把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを把握し、その日の心身状態に臨機応変に対応し、休息したり、有する力の維持と新たな力を引き出せるよう関わり、情報を共有に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	可能な方には本人から思いや意向を聞き取り、ご家族様の意向を確認し、医療関係者と相談しながら、担当職員を中心にフロア会議で話し合っって介護計画作成に取り組んでいる。意思表示が困難な方には、ご家族様の意向を基にご本人様の立場になって計画作成に努めている。	ケアプランは現状に即し、担当者を中心に全職員で利用者や家族の意向、医療関係者の意見を踏まえて検討し、作成している。介護記録は支援目標の達成度が確認できる書式になっており、更新時に生かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の在り方、記録の方法を学び、発言やその時の表情など見える記録をし、介護計画の見直しに活かすように努めているが、職員により差がある。個人別の申し送りの特変や気付いたこと、対応の工夫等小まめに記載し職員間で情報の共有に取り組んでいる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフの配置を充実させ、可能な範囲で個々のニーズに合わせた柔軟な対応が出来るように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事やゴミ拾い、花植えなど積極的に参加をしている。ボランティアや実習生や中学生の職場体験等の受け入れたり、近隣で買い物や外食を楽しむなど社会と関わる機会を大切に支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に協力病院の説明をし、同意があればかかりつけ医の変更、継続してかかりつけ医の病院受診を希望される場合はご家族対応をして頂き、必要な情報提供、共有に努めている。受診が困難になった場合は、相談の上、往診医へ切り替えるなど、身体状況に合わせて適切な医療を受けられるように情報共有に取り組んでいる。	利用者や家族の意向で、月2回協力医による訪問診療を受け、結果を家族に報告している。従来からのかかりつけ医や専門医への外来受診は、家族と協働で支援している。週1回利用者の健康管理で訪問の看護師に、その時々指導を仰いでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週火曜日に訪問看護があり、担当職員が中心となり、1週間の健康状態や気になることを相談し対応や処置の指示を受けている。特変時にも24時間体制で相談が出来、必要に応じて往診が受けられるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護添書を提出し、可能な限り面会に行く等、本人が混乱なく治療が受けられるように協働支援をしている。本人の様子や治療の経過状況を病院関係者やご家族様と話し合い、受け入れ態勢を整える等、早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、終末期の意向を確認している。状態に変化があった時には、現状を伝え医療機関と相談し、今後考えられる状況、ホームで出来る事を説明し同意をえている。ご家族様、医師と話し合い終末期に向けての方針を確認し、全スタッフで情報の共有をしてホーム看取りに取り組んでいる。	入居時に重度化や終末期の対応を説明し、同意を得ている。看取りに関しては定期的に意向を確認し、また、日常の中でも把握に努めている。重篤時は、主治医、家族と方向性を確認し、尊厳ある看取り支援を行っている。職員は、利用者から多くの学びを得ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	連絡体制を明確にし、急変時、事故発生時に備え、定期的に勉強会やフロア会議、外部研修等で学ぶ機会を持っている。いろいろな事例に対応した実践力を全職員が身に付けられるように取り組むたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間、日中の出火を想定した避難訓練を消防署の指導を受けながら行っている。その他マンション全体での消火訓練や勉強会や外部研修でも救助方法の実践や火災や地震、水害等で学ぶ機会を作っている。	コロナ禍により、年2回の日中・夜間想定火災避難訓練は自主訓練としている。公的避難場所の経路確認、階段や平坦での誘導時の対応、消火器の使い方、水害や地震時は各ユニットに留まるなど、新人職員も含め危機管理意識を高く持つよう努めている。	停電を想定した避難訓練の実践と入浴や排泄時等のケア場面での対応、緊急連絡網に地域住民の登録、さらなる地域との連携強化に期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	毎年勉強会で学んだり、毎朝の委員会活動を通して、日々の声のかけ方や言葉遣いなどを振り返る機会を作り、関わり方の質の向上に取り組んでいる。	職員は例年、内外の接遇研修や日々の業務で適切なケアのあり方を学び実践に努めている。馴れ合いと親しみの違いを理解し、職員間でも注意し合える環境作りに取り組んでいる。申し送り時は音楽をかけたリ、端の方に寄りノートで伝達している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々に合わせたコミュニケーションの工夫をしたり、表情や仕草から思いを汲み取り、自己選択や決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由に居室や共有空間で過ごしている。職員を充実したことで、時間帯によって難しいこともあるが、散歩へ行ったり、レク等関わる時間を持つことが出来、個々の体調や気分に合わせて対応するように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定出来る方は、一緒に服を選んでいますが、介助が必要な方は好みや季節に合わせて選ぶように努めている。外出の際にはヘアメイクやお化粧等の支援に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	四季折々の旬な食材を意識して使用している。自家農園で収穫した野菜の下準備、おやつや煮豆、漬け物等を入居者様と一緒に手作りし、食を楽しめるように取り組んでいる。	米や味噌は農家から取り寄せるなど、食の重要性を大事にしている。献立は、一汁三菜を基本に「さとほろ農園」での野菜や果物を活用しながら、夏以外は利用者の好物である刺身を付け、敬老の日は出前の寿司セット、彼岸には農園の枝豆でずんだ餅等を利用者と一緒に作り食している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の咀嚼・嚥下力に合わせた形態で食事を提供し、可能な限り安全に経口栄養が出来るよう努めている。毎日飲食の量を記録し、年2回栄養スクリーニングを行っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	こまめな水分摂取と毎食後の歯磨きを声掛け、または介助にて清潔保持に取り組んでいる。希望者は週1回歯科衛生士による訪問指導や嚥下体操を受けていて、職員も見学や相談をしてケアの向上に努めている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を基に個々の排泄パターンを把握し、失敗のないように声かけ誘導し、可能な限りリハビリやめ布パンツの使用を勧めている。夜間は必要に応じてポータブルトイレ使用し、パット汚染を減らすように取り組んでいる。	排泄チェック表を参考に声かけをしてトイレでの排泄支援を行っているが、半数の利用者には自立排泄後に確認をしている。利用者の状況を見極めた対応に努め、不快感や失敗の軽減に取り組んでいる。職員の支援により布下着の着用が可能になった事例がある。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝のヨーグルト、食物繊維の多い野菜、十分な水分摂取の提供や毎日の体操等で便秘予防に取り組んでいる。個々の排便状況を把握しながら、医師の指示の下、内服調整や座薬を使用して失敗のない排便コントロールに取り組んでいる。			
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴表を基に皆が平均的に入浴が出来るように支援しているが、気分や外出、汚染等、臨機応変にも対応している。会話や好みの入浴剤を選んでもらうなど楽しめる工夫もしている。不調で、入浴が困難な時は清拭やドライシャンプー等で清潔を保てるように支援している。	入浴は週2回、1日2人を基本としている。入浴日の変更や温度調節、同性介助等の要望に応え、ときには2人介助を行い、全員が浴槽に入っている。会話の中から得られた要望には検討を行い、必要時はケアプランに反映している。こどもの日は菖蒲湯で足浴をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体力や生活リズムを考慮し、必要に応じて日中でも臥床を促している。安眠が出来るように温度や湿度、音や光、衣類や寝具に配慮している。眠れない時には、一緒に過ごしたり飲み物を提供するなど工夫している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の健康状態、処方薬の用法用量、副作用の把握に努め、処方の都度、処方内容の変更時は申し送りし内容の確認に努めている。必要時には医師、看護師に報告し適切な服用に努めている。複数の職員で確認し合い、服薬支援に取り組んでいる。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の力や好みに合わせたレクや家事作業の提供をし、やりがいや張り合いが持てるように努めている。好きなビールを飲むなど可能な限り楽しみの継続に取り組んでいる。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体力に応じて、散歩や買い物、ドライブ等、出かけ季節を感じながら気分転換が出来るよう支援している。現在コロナ禍で自粛しているが三人行事でご家族様と会食や余興を楽しんだり、毎月外出行事に取り組んでいる。	自粛の中、外出計画は難しいが、感染予防対策に配慮して少しの散歩、ドライブで公園へ、さっぽろ湖の紅葉観賞、車庫で花火等で気分転換を図っている。以前は買い物や花火大会、五天山公園、ホテルで家族参加の食事会等を行い、家族の外出支援も得られている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本、ホーム立て替えとし後日請求にて対応している。可能な方には、買い物の際の支払いをする機会を持つようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人と電話やハガキのやりとりの仲介をしている。正月には、個々の写真入り年賀状を作成し、可能な方にはご家族様へ一言書いてもらい送っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、日々の写真を飾ったり、皆で作成した季節に合わせた装飾や生花等で四季を感じられる家庭的な雰囲気作りに努めている。整理整頓を心掛け、適宜換気を行い、室温、湿度、臭いにも気を付け状況に合わせた音楽をかけている。	改造型のため共用空間は少し手狭であるが、その分利用者と距離感が近く密な関係が構築されている。効率的に動けるよう調度品等を設置している。季節毎の飾り、行事での写真やレクで作成した作品、生花等を飾るなど、寛げる環境作りに努めている。現在は、さらなる換気、消毒に重点を置いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間が狭いが、テレビ室のソファや玄関のベンチなどで一人で自由に過ごせるように工夫している。共有空間も入居者様同士の折り合いを考慮しながら過ごせるように努めている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごせるよう、馴染みのある家具や装飾品、写真等でご家族様と相談しながら居心地の良い居室作りに努めている。身体状況の変化に合わせて安全に過ごせるよう家具の配置など見直しするよう取り組んでいる。	居室には、利用者が持ってきた物や家族が持たせたい品々が置かれている。調度品や仏壇等は動線に配慮して配置するなど、安心安全に過ごせる居室作りを行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	賃貸マンションで改装が難しく、室内には段差があるが、動線を考え必要な場所に踏み台や手すり、支えとなる家具を配置するなど工夫している。居室でもご本人様が一人で安全に移動し自立した生活が出来るように配置を考え、工夫している。			